

世田谷西部支部

令和3年12月1日発行

〒156-0054

桜丘2-6-3

TEL 3429-3271

12月

天理教世田谷西部支部（東世分教会内）発行責任者 岡庭正行 編集 支部編集部

例会連絡

12月は支部例会はありません

来年の例会予定

- ・1月30日（日） 10：00～
- ・2月28日（月） 10：00～
- ・3月30日（水） 10：00～

いずれも会場は東世分教会です。
(桜丘2-6-3 TEL 03-3429-3271)

※予定は変更の可能性がある
ので、ホームページなどで最
新の情報をご確認ください。

世田谷西部支部ホームページ

<https://tenrikyou-setagayaseibu.jimdofree.com/>



時報手配り
12月予定

拠点教会	1週目	2週目	3週目	4週目
千山	直送	直送	直送	直送
玉川	手配り	直送	直送	直送
八幡山	直送	直送	直送	直送
東世	手配り	直送	直送	直送
神本	直送	直送	直送	直送
本美穂	手配り	手配り	手配り	直送
本月	直送	直送	直送	直送



☆支部行事のお知らせ

- ・支部幹事会
12月はありません
- ・教区特別ひのきしん
12月9日（木） 午前9時半より
2組1名
- ・教区ひのきしん
12月はありません

・婦人会例会
日時 12月17日（金） 10時
会場 東世分教会
(世田谷区桜丘2-6-3)

内容 おつとめ、懇親会

参加費 千円

申込み 準備の都合がありますので、
12月10日（金）までに

東世分教会岡庭利枝までご連絡ください

TEL 03-3429-3271

FAX 03-3429-3646



教区婦人会 オンライン委員部長講習会 開催

10月30日13時、東京教区婦人会の「オンライン委員部長講習会」が、YouTube 限定公開のライブ配信により、オンライン上で開催された。

講習会の講師は松村のぞみ先生（本部婦人、東京分教会夫人）がつとめられ、スライドを用いつつ『小さな事から一歩一歩』というテーマで丁寧にお話くださった。

講習の中で松村先生は、まず「一歩一歩」進む前に目標を意識することの大切さに触れ、「目標が定まっていなかったら、一歩一歩進もうとしても違うところにたどり着いてしまったり、同じところをまわってしまいかもしれない」と説明。その上で、どんな目標を持った活動も土台がしっかりとれていることが大切であるとして、陽気ぐらしの台としての女性の役割の重要性について論じられた。

最後には、「大きなことはできなくても、いま自分にできることを一歩一歩やっていく。そのことが土台となり、『困ったことがあればあそこの教会に相談しよう』『あそこは間違いない』と先々思ってもらえる教会となるように、一歩一歩がんばっていきましよう」と締めくくられた。
世田谷西部支部としては16名がオンラインで視聴し、上映会場となっていた東世分教会会場では3名が共に視聴した。



用賀分教会5代会長就任奉告祭

去る11月21日、用賀分教会（東部属・藤宮淳一会長）では、5代会長就任奉告祭が執り行われた。当日はコロナの影響もあり、参拝者を制限する中で、柴田正明東大教会長御臨席の下、同教会にゆかりある約30名程が参集した。

祭文の中で新会長は「教会設立から97年に渡り、歴代会長を芯に支えてくれた全ての方々への感謝を忘れず、これから教会を色々な意味で少しでも良い形にし、教会長のバトンを渡せるよう精一杯勤めたい」と力強く奏上された。その後は3交替で一手一つにおつとめをつとめた。なお、この日は前会長夫人節子氏の誕生日。上級教会長と教会家族から、今年9月にお出直しされた一雄会長と共に、約28年間に渡り教会の芯としてお務めいただいた事への感謝を込めて、花束と御祝の品が贈られた。同教会では来年2月から神殿ふしんに取り掛かり、11月23日に「落成奉告祭」を予定している。



藤宮淳一 5代会長



支部婦人会 例会報告

支部婦人会（岡庭利枝主任・東世分）では、11月17日、久しぶりの例会を再開した。

10時に東世分教会に集合し、来年の計画を話し合った。参加者13名



布教の家に入って（前編）

神本分教会 坂口裕司



支部内で、布教の家に入寮してがんばっている若者がいます。その貴重な体験を共有していただきました。

今年の3月末に布教の家埼玉寮に来させてもらってから、8カ月弱が過ぎようとしています。

埼玉寮では、個人的に朝は4時20分ごろに起きて座りづとめ・てをどりを勤め、日中は20キロほどの距離を戸別訪問に歩き、夜も9時くらいまでなにかしらの御用をしているような、とても充実した時間を過ごさせてもらっています。

にをいがけでは初代寮長先生である菅徳郎先生の仕込みの「三寸の板を三寸の釘で打ったのではその板は止まらない。『こんにちは天理教です』『天理教はいりません』『そうですか、さようなら』では、相手の心に届かず、にをいはかからない。」という言葉から、たとえ相手に嫌がられると分かっているにもかかわらず、なんとかしておさづけを取り次いだりおぢば・親神様・教祖の話を取り次いだりと、常識を打ち破り人の心にをいを残せるように四苦八苦しながら通っています。

罵倒されたり裏切られたり、苦い顔をしてしまうようなことがたくさんありましたが、神様は私を成人させようとして下さったのか、ふしぎな出会いやご守護をたくさん与えてくれました。

あるお宅を伺った時、今にも命の灯が消えてしまいそうな老人の男性ができました。「十代から精神病で、ある宗教にも入ったけど何も効かないよ。宗教はいらない。さようなら。」とドアを閉められそうになったので、なんとかなだめて、なかば強引におさづけを取り次ぎました。数日後にまた訪問すると、顔面蒼白だったはずの彼が笑顔で私の事をむかえてくれ「ここ数か月、精神病で寝込んでいたのだけど、なぜだか調子が良いんだ。」と嬉しそうに語ってくれました。1回のおさづけで寝込んだ人がたすかるふしぎなご守護を頂いていました。

彼は10才下の弟さんと同居しており、兄弟そろって精神身上でした。家はゴミ屋敷のようで、床を三度ふいただけなのに雑巾が真っ黒になるほど汚かったです。家の掃除やおさづけに通ったり誠真実を尽しているうちに別席を運んでくれる約束をしてくれました。ある時は出発の2日前に病で寝込み始め、必死のおさづけとお願いづとめで復活してくれたり、またある時は裏切ってきたりと、本当に大変でしたがそれぞれ別席を運んでくれました。

目に見えるご守護を頂けて喜んでいたのもつかの間、寮長先生からお仕込みを頂きました。「御守護ばかり願って歩いてるんじゃない、にをいがけ・おたすけは続けていけないよ。自分のいんねんや心と向き合って歩きなさい。」

（続きは次号で掲載させていただきます）